

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>連携型中高一貫教育及び総合学科教育を基盤に、小規模校のメリットを最大限に活かし、将来の国際社会や地域の魅力化・活性化を担うことのできるグローバルリーダーの育成をめざし、子どもたちにグローバル社会を力強く生き抜く力を育む。</p> <p>(1)「確かな学力の育成」 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などを身に付け、主体的に学習に取り組む態度を育む。</p> <p>(2)「規律・規範の確立と豊かな心の育成」 生命と人権、自然と環境を大切にす態度やグローバルな感性を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。</p> <p>(3)「キャリア形成」 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせるとともに、将来の夢や目標を持ち、進路を自ら選択・決定する力や、チャレンジ精神を育む。</p> <p>(4)「家庭・地域とのつながりのある学校づくり」 学校・家庭・地域とが一体となって教育コミュニティを構築し、地域や生徒・保護者のニーズと期待に応える教育活動を推進する。</p>

2 中期的目標

<p>(1)「確かな学力の育成」への取組み</p> <p>ア 21世紀型スキルの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を徹底させるための教育課程を編成する。 <p>イ 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの学力を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反転学習の導入を視野に入れ、タブレットパソコンやインターネットによる映像授業など、ICT教育の活用方法を研究し、学ぶ意欲と学力の向上につなげる。 <p>ウ グローバルリーダーの育成をめざし、地域の課題や国際的な課題を解決できる力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省平成27年度スーパーグローバルハイスクール事業（SGH）での研究開発を充実させる。 ・国内外の大学・高校、国際協力機関、地域企業等と有機的な連携を構築する。 <p>エ 教員の授業力を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や「生徒による授業評価」などを活用し、授業改善や授業力向上を図る。 <p>(2)「規律・規範の確立と豊かな心の育成」への取組み</p> <p>ア 自ら律する規律・規範意識を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、服装、頭髪、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。 <p>イ 教育相談・いじめ防止体制を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のカウンセリングスキルを向上させるための職員研修を実施し、教育相談を細かく行うことで中退防止や課題を抱える生徒に対する細やかな支援・指導を行う。 ・いじめ対策委員会を中心に、学校全体でいじめの事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒の意識を醸成する。 <p>ウ 修学上の配慮を要する生徒に対する指導・支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を活用し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援を充実させる。 <p>エ 多文化理解や国際理解に係る教育を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールのネットワークや国際協力団体等との連携・交流を積極的に活用できる組織体制を充実させる。 <p>オ 生徒の希望する進路の実現を達成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にそれぞれの将来像を描かせるとともに、一人ひとりに応じた3年間の計画的な進路指導を実践する。 ・就職指導、進学指導の充実により、進路未決定者ゼロを実現する。 <p>(3)「家庭・地域とのつながりのある学校づくり」への取組み</p> <p>ア 学校・家庭・地域が一体となった教育コミュニティづくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールを導入するための条件整備や準備を進める。 ・能勢町の6次産業化に向けた事業に参画し、農産加工等での地域連携を構築することにより、町の活性化、地域からの信頼づくりにつなげる。 <p>(4)「能勢町の教育の魅力化推進と学校改革」への取組み</p> <p>ア 平成28年度からの小中学校の統合等の中長期的な視点から小中高一貫教育を再構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「能勢町新学校プロジェクト」「小中高一貫事務局会議」や「小中高校長会」等での協議により能勢町の教育の魅力化を推進し、新たな小中高連携システムを構築する。 ・小中高の12年間で付ける力を明確化するとともに、小中高の連携を子どもたち・保護者・地域から見えやすく、わかりやすい形や姿としてしていく。 <p>イ これまでの教育成果を踏まえ、魅力ある学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGHでの研究開発を活かし、グローバル人材育成に向けた学校改革のプランを決定する。 ・将来構想委員会等の校内組織を活性化し、新たな教育課程の開発など、学科の再編等に向けた具体的な作業を進展させる。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 生徒結果より：「遅刻や私語がない等、集中して授業を受けることができている」(68%→69%)、「命の大切さや人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」(78%→80%)など、少しではあるが授業に対する意識、人権意識が高まっている。「ホームページを見ることがある」(26%→30%)と、HPでの広報活動の効果が上がっている。逆に、「学校に行くのが楽しい」(75%→60%)「能勢高校に入学してよかったと思う」(72%→61%)など、学校生活全般に対して意識の低下が見られ、それらの原因の究明と対応を検討していく必要がある。</p> <p>2. 保護者結果より：「家庭での学習を十分行っている」(31%→37%)と、家庭学習への取組みが少し向上している。「不必要なアルバイトをさせないようにしている」(63%→65%)、「ホームページを通じ学校での出来事や諸連絡等についての情報を得ている」(37%→43%)、「体育祭、文化祭、公開授業等の学校行事に参加したことがある」(71%→74%)、「能勢高校は地域から信頼される学校である」(70%→74%)など、学校への関わりを強める傾向がある。また、「学校に行くのを楽しみにしている」(82%→74%)が減少しており、生徒結果に同じく学校生活全般に対して意識の低下が見られ、本校の取組み方を考える必要がある。「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」(80%→72%)「能勢地域小中高一貫教育は、能勢町の将来を担う人材育成に役立っている」(70%→64%)など、キャリア教育、中高一貫教育についても、取組方法を検討する必要がある。</p> <p>3. 教職員結果より：「教科や学年等により家庭での学習を充実させる工夫をしている」(47%→57%)「心のケアを大切にし、一人一人の人権を守るよう教育体制を整備している」(83%→88%)「能勢地域小中高一貫教育は、能勢町の将来を担う人材育成に役立っている」(28%→43%)と、家庭学習、人権教育、人材育成への意識が高まってきている。「頭髪・服装、言葉遣いなど基本的生活習慣を身に付けさせている」(81%→66%)「遅刻や私語がない等、集中して授業を受ける態度（授業規律）を身に付けさせている」(69%→59%)「望ましい職業観や進学意識を育成する指導を継続的に行っている」(86%→77%)「学校協議会や学校関係者評価を有効に活用し、教育活動の充実や向上に反映させている」(83%→64%)</p> <p>4. 全体的に：、家庭学習への取組みへの意識付けが効果をあげつつある。また、HPでの広報活動が少しづつ、効果を現してきている。キャリア教育の充実、基本的生活習慣の定着、学習意欲の向上に一層取り組まなければならない。各項目で減少傾向が目立ち、学校生活への意欲の低下が見られる。今後、更なる創意工夫を重ね、学校全体の活気ある取組みを推進していく必要がある。</p>	<p>第1回 平成27年6月12日（授業見学・協議）</p> <p>【授業見学】進路に沿った授業選択や、少人数授業などが素晴らしい。一方的な知識の伝達ではなく、生徒が自分で思考を働かせるような授業作りが必要である。</p> <p>【分掌の取組計画】農場と地域との連携授業を進めると良い。SGHで地域に英語でのアピールや地域に根ざす人材育成、郷土愛の醸成を進めてもらいたい。</p> <p>第2回 平成27年11月12日（授業見学・協議）</p> <p>【授業見学】外部講師による興味深い講演が行われていた。生徒は、積極的に内容を吸収してもらいたい。</p> <p>【授業アンケート】教員の教材活用で工夫は見られるが、生徒自身の授業に対する意識が低い。教員から常に予習・復習を促すべきである。学習内容について生徒の理解が低いので、教員間で授業見学を進めるなどで相互に授業方法を研究すると良い。</p> <p>【その他】農場をしっかりと活用する。農場が地域へのアピールには有効である。</p> <p>第3回 平成28年3月2日（協議）</p> <p>【分掌の取組計画】保護者を巻き込んで遅刻指導を強化すべきである。SGHを中学生を能勢高校にひきつける材料とする方法を考えるのが良い。</p> <p>【授業アンケート】小テストを様々な教科で、定期的に一定レベルを設けて実施すると効果的である。基本的に勉強の仕方も教えることが必要である。</p> <p>【学校教育自己診断】宿題はやらなければならないという意識付けを常にしておく必要がある。診断結果を活用して改善の方法を考えて欲しい。</p> <p>【平成27年度学校経営計画及び学校評価】SGH2年目で、より地域へのアピールを考えて、能勢高校を充実させることで地域活性化に繋がるように進めて欲しい。</p> <p>【今後の取組み】学校協議会でも具体的な新たな改善内容を提案していきたい。また、その提案を活用して更なる教育内容の魅力化を図っていくことが肝要である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの学力を向上させる。</p> <p>(2) グローカルリーダーの育成をめざし、国際的な課題や地域の課題を解決できる力を育む。</p> <p>(3) 教員の授業力を向上させる。</p>	<p>ア 課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を徹底させるための教育課程を研究する。</p> <p>イ 反転学習の導入を視野に入れ、タブレットパソコンやインターネットによる映像授業など、ICT教育の活用方法を研究する。</p> <p>ウ 習熟度別学習及び放課後等の講習・補習の成果を常に検証し、土曜日講習をはじめ、効果的な学習形態や指導方法について研究する。</p> <p>エ S G Hの研究開発を活用し、授業や特別活動において国内外の大学・高校、国際協力機関、地域企業等との有機的な連携構築を図る。</p> <p>オ 年2回実施する「生徒による授業評価」や授業公開を活用し各教科・学年・分掌等が一体となり授業改善や授業力向上につなげていく。</p>	<p>ア・S G Hに係る講座等で課題解決的な学習内容やアクティブ・ラーニングを導入。</p> <p>イ・校内ICT教育委員会が中心となり、本校ICT計画を策定。</p> <p>・各教科でタブレットパソコンを活用した学習指導案を作成。</p> <p>・授業や放課後講習等でインターネットによる映像授業を実施。</p> <p>ウ・新たなクラス編成（2クラス制）について、アンケートにより賛成する生徒の割合を70%とする。</p> <p>・生徒による授業評価で「必要な予習や復習ができていない（H26は2.96）」「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている（H26は3.09）」で各々0.15ポイント高める。</p> <p>エ・高大連携の回数を50%増加。（H26 3回）</p> <p>オ・生徒による授業評価全体の数値を前年度より増加（0.2ポイント）。</p>	<p>ア・外部講師による全講座でアクティブ・ラーニング型のワークショップを導入。今後は教科など学校全体での導入につなげていきたい。（◎）</p> <p>イ・年度内に本校ICT計画を策定。</p> <p>・国語、数学、英語、家庭、農業の各教科でタブレットパソコンを活用した授業を実践し、学習指導案を作成。（○）</p> <p>・数学では、映像授業を活用した反転学習を導入できたが、映像授業活用のメリットを高めていきたい。（○）</p> <p>ウ・2クラス制については、2年次生53.2%、3年次生46.7が肯定的な意見となり、今後も、効果的な学習形態や指導方法について研究していきたい。（△）</p> <p>・「必要な予習や復習ができていない」は、3.06（0.10増）、「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」は、3.12（0.03増）にとどまり、次年度の増をめざしたい。（△）</p> <p>エ・海外の2大学を含め、高大連携の回数が230%増加。（H27 10回）（◎）</p> <p>オ・授業評価全体においては、3.22（0.06増）にとどまり、次年度の増をめざしたい。（△）</p>
2 規律・規範の確立と豊かな心の育成	<p>(1) 自ら律する規律・規範意識を身に付けさせるため、生活指導を充実させる。</p> <p>(2) 教育相談体制及び支援教育体制を確立する。</p> <p>(3) いじめの事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒意識を醸成する。</p> <p>(4) 多文化理解や国際理解に係る教育を充実する。</p> <p>(5) クラブ活動を充実させ、学校の魅力化・活性化につなげる。</p> <p>(6) 生徒の希望する進路を実現させる。</p>	<p>ア 教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、服装、頭髪、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。</p> <p>イ スクールカウンセラー等と連携し中退防止や課題を抱える生徒に対する細やかな支援・指導を組織的に行う。また、高校生活支援カードを効果的に活用し、生徒支援を充実させる。</p> <p>ウ 生徒・保護者・教職員が「いじめ防止基本方針」を共通理解するとともに、いじめ対策委員会等の組織・体制を確立し、効果的運用を図る。</p> <p>エ ユネスコ国際交流委員会の充実とユネスコクラブの活性化、オーストラリア国際交流研修、マレーシア修学旅行の改善・充実を図る。</p> <p>オ 既存のクラブの精査、活動時間や教員の指導時間の確保などにより、クラブ活動を魅力あるものとする。</p> <p>カ 外部講師を活用したキャリア指導講座を導入するなど、進路指導の改善を図り生徒の希望する進路を実現させる。進路未決定者をゼロにする。</p>	<p>ア・遅刻指導を充実させ、遅刻数を前年度より減少（前年度の5%）。</p> <p>・始業時から終礼時まで校舎内での携帯電話スマートフォンを使用を禁止する指導を実施。</p> <p>イ・転退学者を減少（前年度の10%）。</p> <p>・高校生活支援カードにもとづいた個別的教育支援計画の作成。</p> <p>ウ・生徒への「いじめアンケート」の定期的な実施と活用。</p> <p>エ・S G Hによる海外フィールドワークの実施。</p> <p>・マレーシアの高校生を本校に迎える交流会の実施。</p> <p>オ・各クラブの活動状況を精査。入部率を3%増加（H26 71%）。</p> <p>・学校教育自己診断で生徒の満足度を3%向上（H26 72%）。</p> <p>カ・学校教育自己診断でキャリア形成を向上させた生徒の割合を3%増加。（H26 83%）</p> <p>・各学年での外部講師による新たなキャリア指導講座の実施</p> <p>・卒業生全員の進路を決定。</p>	<p>ア・特定の生徒に遅刻が集中しており、83%の増加となった。指導方法の改善が急務である。（△）</p> <p>・混乱なく携帯電話スマートフォンに対する新たな指導を行うことができた。次年度も取組みを継続させたい。（◎）</p> <p>イ・転退学した生徒は、すべて1年生で、数はほぼ倍増した。教育相談体制の充実など、指導方法の改善等の対策が急務である。（△）</p> <p>・1年生の該当生徒全員で、個別的教育支援計画を作成。（○）</p> <p>ウ・「いじめアンケート」を6月と11月に実施し、いじめの状況把握と予防等につなげることができた。次年度も継続させたい。（◎）</p> <p>エ・マレーシアでのS G H海外研修に2年生12名が参加。マレーシアからは、6月に高校生20名、12月に大学生20名を受け入れた。（◎）</p> <p>オ・クラブへの入部率は、ほぼ昨年度並みの70%にとどまった。（△）</p> <p>・生徒の満足度（入学してよかった）は、9%減の61%となり、次年度の解決すべき大きな課題となった。（△）</p> <p>カ・キャリア形成を向上させた生徒は、1%増の84%にとどまった。（△）</p> <p>・外部講師を各学年で学期に1回実施、放課後のAO入試対策講座を24回実施。次年度は、定着を図りたい。（◎）</p> <p>・卒業生全員の進路を決定させた。（○）</p>
3 家庭・地域とのつながりのある学校づくり	<p>(1) 学校・家庭・地域が一体となった教育コミュニティづくりを進める。</p> <p>(2) 教育成果の積極的発信により、保護者や中学生、地域住民からの理解を深化させる。</p>	<p>ア 「能勢町付加価値創造協議会」等と協働での農産加工を実現し、能勢高校ブランドの加工品開発を研究。</p> <p>イ 「能勢高校を応援する会」からの支援や様々な地域行事への参加により、教育活動の充実・活性化を図るとともに、地域から必要とされる学校づくりを進める。コミュニティ・スクール導入につなげる。</p> <p>ウ ホームページの魅力化やニュースレター等の有効活用により、教育活動を積極的に発信する。</p>	<p>ア・「能勢町付加価値創造協議会」等と協働での農産加工実習を実施。（全10回）</p> <p>・食の6次産業化プロデューサーレベル1の学校認定。</p> <p>イ・学校教育自己診断の項目「能勢高校は地域から信頼される学校である」の保護者からの肯定的回答を3%増加（H26 70%）。</p> <p>ウ・学校教育自己診断により「ホームページを通じ学校情報を得ている」の生徒・保護者を5%増加（H26 26%・37%）</p> <p>・保護者への連絡メール発信回数を50%増加。（H26 14回）</p> <p>・学校Facebookの開設。</p>	<p>ア・外部講師の活用など銀寄委員会と連携した講座等を16回実施。「能勢高ビザ」を協働で開発し、文化祭で披露。次年度は、ブランド化に向けて確立させたい。（◎）</p> <p>・食の6次産業化プロデューサーレベル1の学校認定方法の検討にとどまった。（△）</p> <p>イ・保護者の本校に対する地域からの信頼については、4%増え、74%となった。（◎）</p> <p>ウ・ホームページから情報を得ているについては、生徒が4%増の30%、保護者は6%増の43%となった。（○）</p> <p>・保護者への連絡メールは、58回発信し、ほぼ3倍増加した。（◎）</p> <p>・学校Facebookを開設。次年度は、Facebookの更新体制づくり、内容充実を図りたい。（◎）</p>
4 能勢町の教育の魅力化推進と学校改革	<p>(1) 平成28年4月の小中学校の統合をふまえ、中長期的な視点から小中高一貫教育を再構築する。</p> <p>(2) これまでの教育成果を踏まえ、魅力ある学校づくりを進める。</p>	<p>ア 「能勢町新学校プロジェクト」「小中高一貫事務局会議」や「小中高校長会」等での協議により能勢町の教育の魅力化を推進し、新たな小中高連携システムを構築する。</p> <p>イ 小中高の12年間で付ける力を明確化するとともに、小中高の連携を子どもたち・保護者・地域から見えやすく、わかりやすい形や姿としてしていく。</p> <p>ウ 大阪府教育委員会、能勢町教育委員会等との協議を進展させ、S G Hでの取組みを通じたグローバル人材の育成など、今後めざすべき教育について機関決定し、中学生・保護者・地域等に幅広く周知する。</p> <p>エ 将来構想委員会等の校内組織を活用し、新たな教育課程の開発など、新たな学科等への再編整備に向けた具体的な作業を進展させる</p>	<p>ア・本校土曜日講習会に25%の中学3年生が参加（H26 17%）</p> <p>・アンケートによる満足する中学生の割合を80%にする。</p> <p>イ・中学生保護者対象の授業見学会を実施。（全4回）</p> <p>・アンケートにより満足する保護者の割合を70%とする。</p> <p>・連携中学校の生徒の50%が本校に入学。</p> <p>・豊能町から本校への通学バスの運行を決定し、連携中学の拡大につなげる。</p> <p>ウ・S G Hの研究指定さらには決定された新たな教育内容について、豊能地区の全中学校へのポスター、全3年生にPR用パンフレットを配布。</p> <p>エ・新たな学科での教育課程とシラバスを作成。</p>	<p>ア・参加者は少なかったが、全員が満足できる内容であった。（○）</p> <p>イ・土曜講習会、S G H関連講座（計23回）、園芸講習会等を案内し、中学生保護者が本校教育を実感できる機会を増加。次年度も、継続させたい。（◎）</p> <p>・アンケートを実施できなかったが、教育力と発信力の向上により中学生保護者の満足度を着実に高めていきたい。（△）</p> <p>・連携中学からは、その50%が入学を予定。（○）</p> <p>・通学バスの運行等については、次年度決定する再編整備方針に委ねられることになった。（△）</p> <p>ウ・豊能地区の全中学校へのポスター、全3年生にS G Hパンフレットを配付。次年度も継続していきたい。（◎）</p> <p>エ・平成30年度からの本校教育の方向性の決定には至っておらず、次年度は、新たな教育内容を確定させ、教育課程やシラバス等を作成したい。（△）</p>